

2019年7月17日

3学年保護者の皆さまへ

伊丹市立伊丹高等学校
PTA会長 上村 由美子
3学年部長 河野 明美

3学年保護者会だより

梅雨明けが待ち遠しい折、保護者の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素はPTA活動にご協力いただきありがとうございます。

7月1日（月）に開催されました3学年保護者会の報告をいたします。

（参加人数：保護者81名、先生方10名、合計91名）

教頭先生のお話

72回生の皆さんも遂に第三学年となりました。キャリアセンターや職員室前で熱心に勉強に励む姿を見かけることも多くなり、頼もしさを感じているこの頃です。

先日、本校生が交通事故に巻き込まれる事例が発生しました。加害者として事故を起こす側にならないのは当然として、今回のように普段からきちんと交通ルールを守っている者であっても事故に巻き込まれることがあるということを踏まえ、どうかご家庭の方でも今一度、安全な交通マナーのあり方についてお話頂けたら幸いです。

また、検討しておりました災害時のメール配信システムが導入されます。かかる費用についてはPTAよりご負担頂けることとなりました。7/19（金）の全校集会にて生徒に登録用QRコードを印刷した用紙を配布する予定です。なお、この用紙は各人に個人用のものが配布されますので、他者の手にみだりに渡らないよう大切に保管をお願いいたします。携帯電話を新しいものに替えた際の再登録でも使用する重要な書類となります。

受験環境が大きく変わる節目の年にあたり、先行きに不安を感じていらっしゃる保護者の方も多いかと存じます。私ども教員も積極的な情報収集を行っており、ご家庭への情報共有を密にすることで、生徒が安心して受験に臨める体制を整えていきたいと考えております。どうか此度の会が実り多きものになることを願っております。

学年主任 上中先生

私たち72回生学年団は、横のつながりを大切にしてきました。これから生徒の皆さんが直面する進路への不安や悩みに対して、学年団および進路指導部で情報共有しながら、学校全体として、生徒の皆さん一人一人に、適切なアドバイスをしていきたいと思っております。本年度もよろしく願いいたします。

1 組担任 生駒先生

最優秀賞を獲得した文化祭では、3年間の集大成を発揮することができました。一丸となって取り組む楽しさや大切さを改めて感じました。また、週2回行っているGCシェアではGCの「先輩」として頼もしい姿を見せてくれています。

次はそれぞれが進路を実現する時です。クラスで支え合いながら良きライバルとして切磋琢磨してほしいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

2 組担任 河村先生

2組は自ら考え行動できる生徒が多いクラスです。文化祭では、誰かに指示されることなく、自分たちで意見を出し合い劇を完成させました。そのような互いに支え合い高め合える雰囲気があることを非常に頼もしく思います。進路についても、目標に向かって早朝や放課後に勉強に取り組む生徒の姿をよく見かけます。彼らを精一杯サポートしていきたいと思っていますので、今後とも宜しく願い致します。

3 組担任 曾田先生

3組は理系と国公立文型の混合クラスですが、6月の文化祭を通して一致団結するとともに、数々の試練を乗り越えて優秀賞を獲得する姿が見て取れました。「目標を明確に持ち、困難にぶつかったときに、乗り越えることを前提に思考・行動する」という姿勢が、今後の生活や受験にも良い影響を与えてくれたらと思っています。

高校最後の一年が彼ら彼女らにとって最高のものとなるよう、担任として頑張ってまいりますので、今後ともご支援よろしく願いいたします。

4 組担任 井汲先生

男子28名女子12名という編成で、特に女子にとって大変なスタートだったと思いますが、文化祭を機に距離は縮まったと思います。文化祭では2つのこと①(受験の山場に向けて)お互いに支え合える関係をつくること②スケジューリングの大切さを伝えてきました。準備中の失敗体験とダブル受賞という成功体験をともに味わい、非常に大きな武器を手に入れることが出来たと思います。

数学では、一部の人との関わりがなくなり残念なところではありますが、受験に向けてビシビシと鍛えていきたいと思っています。

今後ともご協力のほどよろしく願いいたします。

5 組担任 倉垣先生

5組はとても元気なクラスです。文化祭では、一人ひとりが自分にできることを提案し合いながら最後まで練習を続けた努力が実り、特別賞を手にする事ができました。

進路に直結する最終学年の担任をさせて頂くにあたり、生徒とコミュニケーションを密に取りながら全員が納得できる進路を実現できるようにサポートしたいと考えています。

どうか一年間よろしく願いいたします。

6組担任 巽先生

文化祭では、ダンスを多く取り入れ、舞台に出ることができる生徒は全員ダンスに参加しました。クラスが一丸となって、一つのことに向かう姿勢が輝いていました。

進路指導に向けて、持てる知識・取得した資格を活用し、志望する進路に向かうことができるようにサポートしたいと思います。

保護者の方々にもお願いすることがあると思いますが、お子様の進路実現のためにご協力をお願いします。

7組担任 出口先生

3年間担任を務めさせていただくこととなりました。今年度もよろしくお願い致します。その中で迎えた文化祭でしたが、3年間の関係性の中で、各自がそれぞれの人柄にマッチした役割を全うしたように思います。今後は、学年の一員として、またクラスの担任として、それぞれが進路実現をできるよう、サポートして参ります。

7/1 第3学年進路講演会 講義録

「進学に向けての準備」と「保護者としてできること」

～昨今の入試事情（今年の入試を振り返って）～

河合塾マナビス姫路大手前校 高田宣孝 先生

【入試に対する考え方について】

- ・入試を取り巻く環境が大きく変わり、様々な情報が交錯している。学部の難易度や受験倍率などに関する情報が出回ることによって「ここなら入りやすい（受かりやすい）」といった判断で、自分の進路希望を変更する受験生が出てくる。ただし、そのような形で志望校を変更した生徒は結果が出ないことが多い。自分の希望は安易に変えず、目標を実現できる実力をつけることが何より大切である。
- ・就活等を見越して、就職に有利イメージのある学部を選ぶ生徒がいるが、実際のところ、学部での有利不利はない。やりたい事にフォーカスして、進路は選ぶべきである。
- ・「全て子供に任せている」とおっしゃる保護者の方も多いが、必要経費等を全て振り込んだ後で「やはりイメージと違う」といって進路先を辞める学生が毎年一定数いる。経済的にも大きな負担になるので、家庭での意思統一を徹底しておくことが、最終的には受験費用を抑えることに繋がることを認識しておく。
- ・受験まで残り6ヶ月を切っている。残り時間を無駄なく使う事が求められる。多くの学生が受験後に「あの時もっと勉強しておけば良かった」と後悔をするので、そうならないよう周囲がサポートしていきたい。
- ・オープンキャンパスに子供と一緒に参加し、公開講義を受けてみることで、学部のマッチングがはっきりすることが多い。
- ・受験において複数の学校の入試を受けるのは一般的だが、私大業界の入試スケジュールは非常に「合理的」に組まれており、ある学校の合格を確保した上で別の大学にチャレンジするという際に「入学金の払

い込みがギリギリ必要になる日程」などで組まれていたりする場合がある。したがって、受験費用としての入学金は、平均で「二校分はかかる」と考えておくべきだ。以上のことから「公募推薦で二番手校の合格を押さえておき、一般入試は本命校一校に絞る」という戦略も効果的である。

【大学の倍率や入学定員について】

・後期試験の倍率は数字上高く出るが、実際はその半分ぐらいが既に前期で合格していたり、二番手校などで納得して受験を終えるため、実際の試験を受けない。数字に臆せず最後まで頑張らせることで進路実現できる可能性が高い。

・ここ数年の受験状況をトータルで分析すると、約5人に1人が国公立大学に合格している計算になる。

・受験難易度を分析したい大学があった場合、倍率よりも「実際の合格人数」を見ること。「受験倍率」は前年度の状況を踏まえてなされた調整で容易に変化する数字であって、必ずしも大学の難易度とイコールにはならない。したがって、まずは「実際の合格者数が多いか少ないか」を見るべきである。

また、その際には「合格最低点」を合わせてチェックすることで、具体的に目指すべき数値を知る事ができる。

・新設学部ができた大学は、受験生が集まることと、入学定員を厳密に守る傾向があるため、難化しがちである。

・産近甲龍以上の大学においては、今年度の入試難易度等は昨年並みで推移する見方が強い。

・ここ数年で私大の難化が進んでいるのは事実だが、実際の入学者数は少ない(もっと上の受験層が滑り止めとして私大の合格を確保する傾向が強くなっているということ)。従って追加合格や補欠合格などが出やすいという一面もある。何にせよ、自身の目標大学に挑戦してみることで、チャンスが広がる。

【各教科について】

・試験はとにかく時間内に終わらせることが重要である。当たり前だが、テストは全ての解答欄を埋めて100点満点で作られている。一方で、多くの大学は合格ラインが7割前後で設定されている。従って、解けた問題数が少なければ少ないほど高い正答率が求められることになる(最後まで解けていたら正答率は70%でよいが、7割までしか解けていないなら、正答率が100%でないと合格ラインに乗らないということ)。特に国語などは最後まで解けない生徒が多い科目なので、時間内に終わらせるトレーニングを必ず行っておくこと。

また、模試の結果などが返ってきた際には、間違った部分が「力不足」なのか「時間不足」なのか確認することが大切である。ちなみにセンター試験における1問にかけられる時間は、教科で多少差があるが、だいたい「1分30秒」である。

・産近甲龍以下は英語の配点は100点だが、関関同立は英語の配点が200点である。相対的に英語の重要性が高く、英語が得意かどうか合否に大きな影響を与える。

・英検等の外部試験の入試利用が増えてきている。また出願要件に入る例も出始めている。(関西外国語大など)

・次回の9月模試は、まずはC判定(合格者と不合格者の数が一緒になるボーダーライン)を目指すといい。